



信太 和子  
(大河・生々・みどりの会連合)

## 能代産廃の 遮水壁本体の調査を

**質問** 産廃倒産業者が設置した既存の遮水壁本体の調査が「実施計画書」策定時にも、遮水壁工事発注時にもされていない。これでは、遮水壁の有効性の確認が不十分であり、市として調査を要求すべきでは。

**答弁** 県では、遮水壁の有効性の調査研究や環境保全対策に関する検討を行っている。平成15年4月には環境保全対策部会の中間報告がされており、この中で遮水壁については「既存資料や新たに実施した高密度電気探査の結果、さらには新設した観測井戸を含む地下水の水質調査結果等から見て、その汚染拡散防止の効果として有効に機能していることが確認できる」と報告されている。このことから、遮水壁は汚染拡散防止のために機能しているものと理解している。

## 住吉町住宅の木造化 を転換した理由は

**質問** 住吉町住宅は木造2階建てと産学官の一致した今までの方向を、市長就任からわずか1カ月半の6月定例会で、多層階耐火構造(RC)で建設との方針転換の意思を表明したが、その理由はなにか。

**答弁** 住吉町住宅はこれまで、現地に100戸程度、残り50戸の建設候補地を中心市街地エリア内として検討してきたが、建築後50年を経過し老朽化も著しく、現入居者の方々に早期に安全で安心な住居の提供が最も大切なことであり、また中心市街地への定住人口の増加、賑わいの創出等から街へ人を誘導することが必要である。そのため中心部にある数少ない貴重な市有地を最大限有効活用したい。さらに、残り50戸の建設スペースは中心市街地エリア内では確保が難しいこと、建てかえ事業の要件である現有戸数以上の建設が必要であること、100戸以上の建てかえに必要な福祉施設、駐車場、居住スペース等を考慮し、現在地に耐火構造により150戸程度の建設を目標にしたいと考えている。

### 信太議員のその他の質問事項

- ・市史編さん事業継続について
- ・歴史民俗資料館・美術展示館と火力協力金
- ・東インター付近の大型店出店



針金 勝彦  
(平政会)

## 小学校の統廃合 について

**質問** 少子化、過疎化が進み児童生徒数が減少する中、統廃合や学区の再編が計画されているが、学校再編を考えていく上で、小規模特認校や小中一貫校も選択肢の一つになりうると思うが、本市の義務教育のあり方、方針はどうなのか。

**答弁** 各地域で地理的な要因や歴史的文化的背景が異なることなどから、地域の実情を踏まえ、それぞれ地域に合った教育環境の整備を行い、地域・学校・行政が一体となった学校教育を行う必要がある。これまでも常盤地域の小中併設校、市街地の淳城3校廃止2校新設や二ツ井地域の小学校1校への再編等、各地域にふさわしい教育環境の整備を地域の理解を得ながら進めてきている。今後も、小規模校に特色を持たせ、市内の各地域から入学を認めるといった弾力的な運用や小中一貫校的な運用も選択肢の一つとしながら、教育環境の整備を進めていく。

### 針金議員のその他の質問事項

- ・学校建設の財政への影響について
- ・カシノナガキクイムシの被害は
- ・行政諸課題の精査について

## 松くい虫の 被害状況と対策

**質問** 現在、風の松原は市民の方々が健康づくりや環境学習の場、憩いの場として利用しており、まちづくりを考えていく上で欠かすことのできない場所である。松くい虫の被害状況の推移と対策はどのようなになっているのか。

**答弁** 本市の松くい虫被害は、平成8年度に檜山地域で確認され、11年度には風の松原で、16年度は旧二ツ井町でも確認されるなど全市に拡大している。14年度に風の松原で被害量が増加したことにより、それまで主体的に実施していた伐倒駆除に加え、15年度からは新たに薬剤散布や樹幹注入に取り組んだ結果、年々被害量は減少している。今年度の風の松原での薬剤散布は約640haとなっており、国では被害の北上を食い止めるため、17年度から3力年で松くい虫被害先端地域特別対策事業を実施し、徹底した伐倒駆除や薬剤散布を講じている。